

フルトヴェングラー・センター® The Wilhelm Furtwängler Centre of Japan

創設 2003 年 10 月 1 日 Established: 1st October 2003

名誉会長 Prof. Dr. アンドレアス・フルトヴェングラー

Honorary President: Prof. Dr. Andreas Furtwängler

Newsletter No.43 / 会報第 43 号 2015 年 11 月

目次

1. フランス協会+フルトヴェングラー・センター共同制作 新譜 CD
モーツァルト『魔笛』全曲 頒布のご案内。 P.1
2. 桧山コレクション 第7回頒布 CD のご案内 P.4
3. 既頒布資料についての会員諸氏からの反響 P.5
4. 第67回レクチャー・コンサートのご報告と記録ビデオ
(DVD、ブルーレイ) 頒布のご案内 P.5
5. 第68回レクチャー・コンサートのご案内 P.9
6. 寄稿「続・フルトヴェングラーの手紙」連載第11回 会員 田中昭 P.10
7. 寄稿「フルトヴェングラーの銘盤 アナログ再生の魅力 <米国盤>」 清水公典 P.12
8. 2016 年度会員更新のご案内 P.15

新譜 CD 頒布のご案内

フランス・フルトヴェングラー協会 / フルトヴェングラー・センター 共同制作

モーツァルト 『魔笛』 全曲

(1951年8月6日 ザルツブルク音楽祭公演 ライブ)

(CD 3 枚組 送料込み 4,300 円)

1951年7月29日、フルトヴェングラーはバイロイト音楽祭で、あの伝説のベートーヴェンの「第9」を演奏しましたが、それに続く公開演奏が、8月1日ザルツブルク音楽祭・フェルゼンライトシューレでのモーツァルト『魔笛』の初日公演でした。



『魔笛』は2回目の公演が行われた8月6日に放送のためのテープ収録が行われ、8月29日にウィーン、フランクフルト、ハンブルクなどで放送されました。

フルトヴェングラーが採用した遅めのテンポは、当時新聞などで批判されたものですが、出演者のイルムガルト・ゼーフリートはインタビューに答えて、次のように語っています：

「いつもの通り、彼の解釈は明確で、通常よりずっと遅いテンポが採られ、ものものしい、通常とは全く異なる厳粛なモーツァルトになりました。最後の方の有名な別れの三重唱は重厚で、まさにトリスタンとイゾルデの世界になりました。でも私はとても気に入りました。この瞬間の悲劇性を初めて感じる事ができたように思えたからです。」

また、この演奏が2回目の公演だったことで、歌手たちも初日特有の『舞台負け』を克服して、自然で完璧な演奏を成し遂げました。

演奏者など

ヨーゼフ・グラインドル（ザラストロ） アントン・デルモータ（タミーノ）

パウル・シェフラー（弁者） イルムガルト・ゼーフリート（パミーナ）

エーリッヒ・クンツ（パパゲーノ）、エディット・オラヴェツ（パパゲーナ）

その他

ウィーン国立歌劇場合唱団

ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団

指揮： ヴィルヘルム・フルトヴェングラー

会場： ザルツブルク・フェルゼンライトシューレ

この録音は従来からオーストリア放送のアーカイブ・テープなどにより EMI など
で発売されてきましたが、残念ながら音質が必ずしも満足のいくものではありません
でした。幸い、エリーザベト夫人の手元には素晴らしい音質のテープが保
存されていて、フランス協会は生前このテープからコピーを取り、今回ようやく
その「秘蔵テープ」に入念なマスタリングを行い、これ以上はない決定版 CD を完
成するに至りました。32 ページにわたる解説書には、数多くの興味深い写真と
ともに、フランス語、英語、日本語の解説を掲載し、まさにこの録音の決定版と
称すべき内容となっています。会員の皆様にも、是非入手されますよう、強くお
勧めいたします。

申込要領：

1. 本 CD はフランス協会およびフルトヴェングラー・センターの共同制作で、セ
ンター会員であればどなたでもお申込いただけます。
2. 同封の郵便振込票をご利用下さい。
3. 申し込み期限は **12 月 11 日（金）** です。締切り後も在庫がある限りはお申込
み戴けますが、できるだけ期限までにお申し込みをお願い致します。
4. この CD はセンター会員自身が所有される事を条件に **3 セット**までご購入
いただけます。オークションを含む転売及び譲渡目的・名義貸しは一
切お断り致します。

発送：

この CD はすでに完成し、入荷しておりますので、お申込あり次第順次発送いたし
ます。なお発送には、お振り込み後、2 週間程度の猶予をいただけますようお願い
いたします。お問い合わせの際は①振込年月日、②振込金額をお知らせ下さい。

センター顧問山口昂氏（ペンネーム 桧山浩介）から、愛蔵のフルトヴェングラーの78回転盤レコード（以下SP）コレクション全約170枚を寄贈いただいたことは会報第16号（2007年12月発行／曲目詳細掲載）でご紹介いたしました。会報36号でご案内の通り、それらの中からSP盤をセンター会員諸兄のフルトヴェングラー研究に供するための資料としてCD化し、ご提供することとして順次制作中です。

今回のメインは1948年-1949年にウィーンで録音された
モーツァルトの交響曲第40番ト短調です。

この録音はフルトヴェングラーの最高傑作のひとつで、「彼の演奏はすべてテンポが遅い」という迷信を打ち砕くような、疾風怒濤の演奏です。特に第1楽章で、早めのテンポによる確固たるリズムの上に、いささかの妥協もない弦がモーツァルトの「疾走する悲しみ」を描いてゆく様はまさに圧巻です。

	<p>Wolfgang Amadeus Mozart (1756-1791)</p> <p>Symphony No.40 G minor, K.550</p> <p>Serenade No.10 for winds "Gran Partita" B flat major, K.361</p> <p>Wiener Philharmoniker</p>
<p>桧山コレクション FACULTY WFFC1503-HYM</p>	<p>Wilhelm Furtwängler</p>
<p>The Wilhelm Furtwängler Centre of Japan</p>	

SP再生には、既発WFFC1404-HYM（チャイコフスキーの「悲愴」など）から使用開始しているGE社のバリレラ型を中心に、自作イコライザーを通してDSD収録を行い、その上でハイレゾ・アナログ変換してノイズ処理を行うなど、細心の注意を傾けて行いました。これにより、これまでのLPや復刻盤からは聞くことができなかった、内声部の動きなどを豊かに味わうことができるようになるとともに、演奏のダイナミズムを十分に感じ取ることができるようになりました。

併録は同じくモーツァルトの**セレナーデ第10番「グラン・パルティータ」**です。これは第2次大戦後、非ナチ化裁判を終えて、ようやく行われた戦後初の録音セッションで収録された演奏ですが、やっとフルトヴェングラーとの録音を開始できたウィーン・フィルの木管楽器奏者たちの弾む心が聞き取れるような名演です。

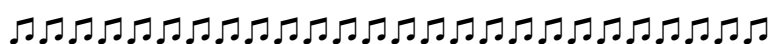
今回のCD化にあたって、各面の収録内容を仔細に検討した結果、CD化は「つなぎ版」でおこなうこととしました。例えば交響曲第40番の第1面の終わりと第2面の頭、第3面の終わりと第4面の頭が自然につながった状態で収録されているので、あえて切り離しませんでした。これまでセンターの収録方法にご不満を持たれた会員の方々にも楽しんでいただけると確信します。

WFFC1503-HYM (1CD-R)

- ① モーツァルト作曲 交響曲第40番ト短調 K.550
ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団
1948.12.7/8 1949.2.15 (第2楽章) (ウィーン楽友協会大ホール)
- ② モーツァルト作曲セレナーデ第10番変イ長調 K.361
「グラン・パルティータ」
ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団
1947.11.10/19/26 (ウィーン楽友協会大ホール)
1947.12.3 (ウィーン楽友協会ブラームス・ザール)

CD 申込方法

1. 頒布資料代：1CD-R 1600円 (送料込み) 同封の郵便振込票をご利用ください。
2. 申込締切り日：平成27年12月11日 原則として締切り時のご注文数を元に製作いたします。それ以降もお申込は戴けますが、追加プレス・頒布まで日時を要する場合がありますので、できるだけ期限までにお申し込みをお願い致します。
3. 発送予定：平成28年1月下旬



既頒布資料についての会員諸氏からの反響

「桧山コレクション」第6集 WFFC1502-HYM について

1. 貴センターでは独自の音源発掘の他、SPについてもブルックナー4番やベートーヴェンの第5などこれまでに色々ユニークな試みを致しておられますが、復刻についてはすっかり板につかれたようで嬉しいかぎりです。

聴き始めて、特に第1楽章がこれがSPかと思うほど情報量が多く、驚愕致しました。ヴァイオリンとオーケストラの掛け合いが細部まで緻密に再現されており、特に弦の細やかさが際立って聞こえる所など、演奏の内容を見直すと共に、これはSPならではのものなのか、と改めて感じた次第です。

ハンガリア舞曲がまた良く、'30と'49という録音年代の差もあって舞曲と協奏曲でそれぞれ聴き比べる事ができたのも収穫でした。これまでの盤と同様、違う方による復刻ですが今回カートリッジを揃えられたのはやはり音色を重視されたからでしょうか。

これからも引き続き良い復刻を聴かせて頂きますように。 (匿名希望)

2. I was happy to receive the latest CD of the Hiyama collection. Again an excellent production. This time I liked most the Hungarian Dances from Berlin. Amazing that a recording from 1930 can capture so much presence and vividness. The pizzicato of the lower strings come out so clear. Also it makes a difference in the Violin Concerto, to know where the side splices are. I always thought the ritardando before the second theme in the first movement is a bit much but that's where they had to stop and start again which explains it. I look forward to the next releases in the series! How much easier everything would be for Furtwängler nowadays-no annoying breaks every 3 minutes, no restriction in dynamics. He could just do live recordings. Again many thanks for your letter and the CD and best regards from Munich!

Dietrich

(桧山コレクションのCDを嬉しく受け取りました。今回の復刻も素晴らしい。特に気に入ったのは、ベルリンでのハンガリア舞曲です。1930年の録音がこれほどの存在感や生々しさを捉えていたとは驚きです。低弦のピツィカートがなんとクリアーに再生されることなのでしょう。ヴァイオリン協奏曲についても、面の切れ目がどこにあったかが判明したことでわかったことがあります。私は常々第1楽章の第2主題の前のリタルダンドが少々やりすぎかな、と思っていたのですが、それはそこで演奏をやめて、別の面のために再開しなければならなかった所為だったのですね。次のCDが待ち遠しいです!

フルトヴェングラーが今日生きていたら、すべてがどんなに容易だったことでしょう。3分ごとの切れ目を気にすることもなく、ダイナミックスに気を使う必要もなく、ただライブ演奏を収録すればよいのですから。)

ディートリヒ・フォン・カルテンボルン
(バイエルン国立歌劇場管弦楽団・チェロ奏者)

第67回レクチャー・コンサート (講師： 広瀬大介博士)

今回のレクチャー・コンサートは、前回に引き続き、ウェーバーの魔弾の射手で、第二幕と第三幕。テーマは「狼谷の表現様式」。この場面をメロドラマとしたことがどのような意味、意義があるのか、そもそもメロドラマとは何なのかを、わかりやすくご説明いただいた。

本来「メロドラマ」とは、愛憎渦巻く昼のテレビドラマのようなものではない。フランスで生まれた、メロディーとドラマを融合させた小規模な演劇様式で、どちらかという、歌よりも演劇に重きを置いた様式であった。

一方ドイツにはジングシュピールという小規模な様式があったが、フランツ・ヨーゼフ二世の時代、モーツァルトの時代になって、より大規模なものとして発展してきた経緯があった。さらにそこから、ウェーバーからワーグナーに至る、オペラとしての様式と、ブラームスの「美しきマゲローネのロマンス」や、R.シュトラウスの「イーノックアーデン」といった朗読付きの音楽という様式へと分化していく。

さて、そのように様式が変化してきた中、ウェーバーが魔弾の射手というオペラの、弾を作るだけというシーンではあるものの、非常に重要なシーンをなぜ、メロドラマという様式にしたのか。

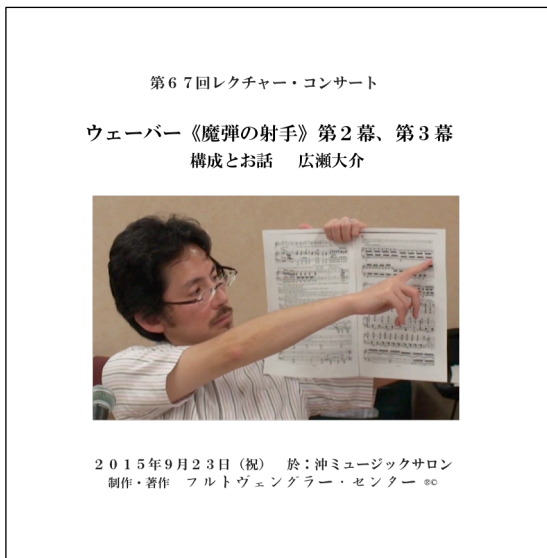
その場面は、ドラマチックな音楽でありながら、ほとんど歌らしい歌もなく、実際、ストーリー展開としては、弾を作るだけ。そして6発目の弾を作る時になって初めて序曲で登場したザミュエルの動機が登場する。このような、大きなドラマの展開がないながらも緊迫したシーンを表現するオペラとしての手法がその当時はまだなかったのである。

音楽劇としてのオペラの変遷、その中でセリフと音楽が果たす役割。そして近年のセリフ付きオペラにおけるセリフ部分の扱われ方など、改めて考えさせてくれるお話であった。

(薬師寺純平)

頒布資料

恒例により上記のレクチャー・コンサートをビデオ収録致しました。遠隔地やお仕事その他で参加いただけない方々のためにDVD-Rとブルーレイ・ディスクで頒布いたしますのでご利用ください。(メールではすでに頒布のご案内を差し上げていますので、重複しないようご注意ください。) DVD-Rの画像は従来と同様(SD画質)ですが、ブルーレイ・ディスクはすべてHD画質で収録しました。なお、発送はご入金確認後2週間程度の御容赦を下さいますようお願い致します。



なお、今回も前回同様、レクチャー・コンサートで使用した音源については、別録りした音源を挿入し、音質の向上を図っています。特に今回使用したチェトラ盤は、フルトヴェングラー家所蔵とされる真正ステレオ音源をLP化したものと言われています。6本のマイクを2チャンネルにミックスしたもので、もともと左右ステレオの考え方もなしに録音されたものなので、定位は甚だ曖昧(観客が発するノイズの定位は明快!)だが、会場の雰囲気は十分に楽しめるステレオ録音となっ

ています。

DVD-R (2枚組) 版 WFER-1504-A/B ¥3,400

ブルーレイ版 WFER-1504-BD ¥3,200

いずれも当日配布資料と送料込みです。

この会報に同封した振込用紙の該当箇所に○を記入してお申し込み下さい。

第68回 レクチャー・コンサート開催

開催日時：2015年12月6日（日）

開演 午後1時30分開演 終了 午後5時ころ

講師 松本大輔氏（アリア CD 店主）

今回は、愛知県春日井市にある日本最大のクラシック専門CDショップ「アリアCD」の店主・松本大輔氏にお願いしました。

氏はこれまで「クラシックは死なない！」シリーズをはじめとする5冊のクラシック関係の著作を執筆、マニア向けの熱い内容で熱いファンに支持されています。また松本氏は大学でクラシック音楽講座の講師を務め、ビジネス交流会やサロンやパーティーなどで講演するなど、クラシック音楽を広く伝えるために熱心な活動を行っています。

題材は

「フルトヴェングラーの生涯を追いながら、その時代にあわせて、すべてのベートーヴェンの交響曲第5番の録音の冒頭を聞き比べていく。」となります。

講師略歴：

1965年、松山市で放送記者の父と箏曲家の母との間に生まれる。

岡山大学法学部卒業後、日立ソフトウェア・エンジニアリング株式会社でOS設計の仕事に従事していたが、芸術に関する仕事をしたいという思い捨てがたく、24歳でついに音楽ソフト・バイヤーの道へ。

池袋 WAVE クラシック売り場に転職、サブ・マネージャーに昇格したところで、HMV 栄店クラシック売り場で働くことになる。売り上げがよかったため、クラシック担当を外れ店長に昇進、その後九州・関西、そして再び名古屋で店長を歴任しながら、同時に関西エリアのクラシック部門を統括するが、結局クラシックCD一本の道を選び、独立。アリアCDを開業。現在に至る。

○参加費：センター会員1000円、（非会員2500円）

○会場：沖ミュージック・サロン

○お問い合わせ、予約：

電話またはEメールで下記まで。満席の場合はご入場いただけませんので、できるだけ予約ください。キャンセルは前日までにお願いいたします。

TEL：080-660-33-444（電話でのお問い合わせなどは夜8時～10時の間にお願いいたします）

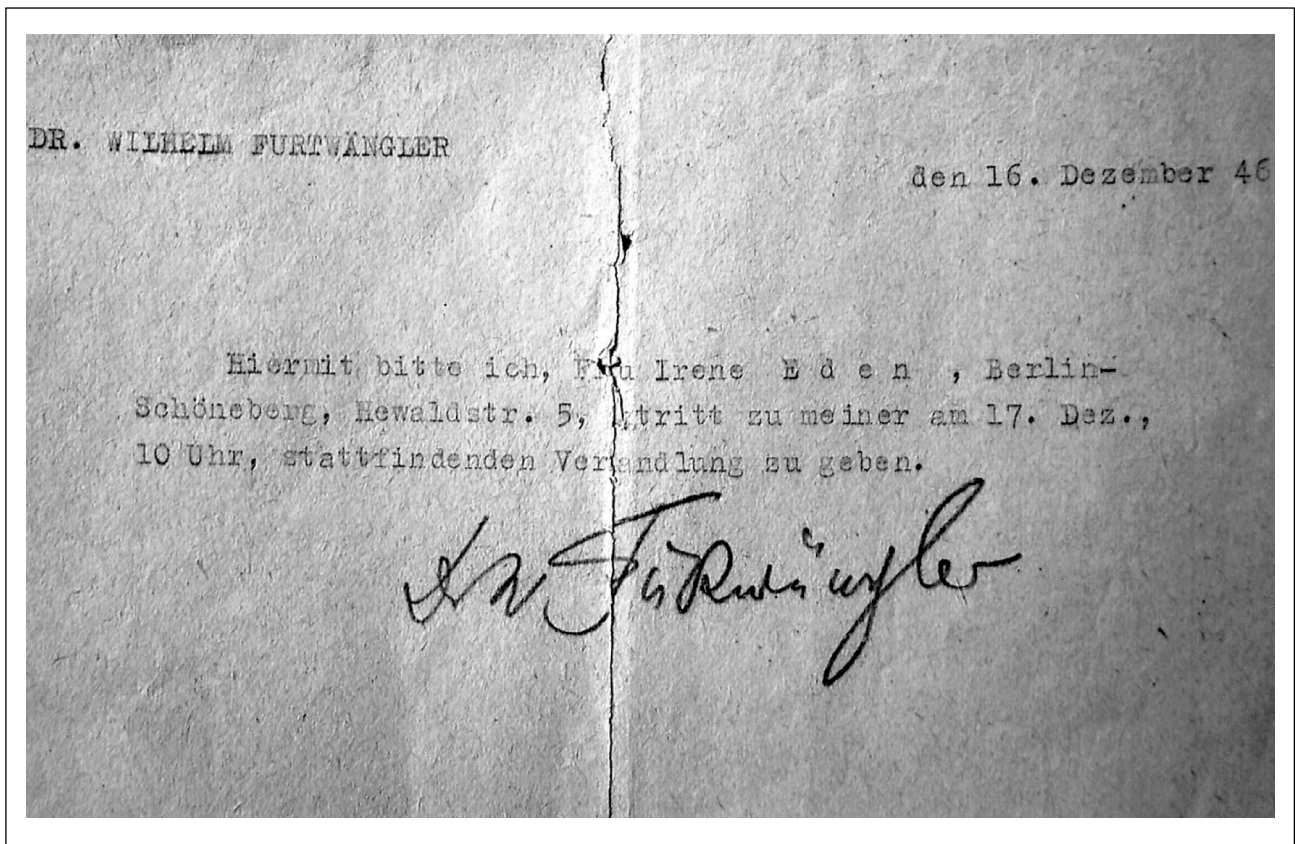
Eメール：info@furt-centre.com

終了後、引き続き講師を囲んでクリスマス懇親会を会場で開催いたしますので、是非お気軽に参加ください。参加費は2000円程度で、当日会場でもお申し込みをお受けいたします。フルトヴェングラーファン同士で軽食とシュトレ、ビール、ワインなどを食べ飲みながらの語らいはいかがでしょう？

寄稿

「続・フルトヴェングラーの手紙」連載第十一回 会員 田中昭

今回の手紙は、手紙と言うよりも「依頼状」と呼ぶ方が的確かも知れない。1946年12月に連合軍によって行われた「非ナチ化裁判」に際して、フルトヴェングラーが書いた「入廷（傍聴）依頼状」（注・1）である。残されたフルトヴェングラーの手紙は、結構沢山あるがそれらの中でこの手紙は珍品に属すると思われる。なお文中のイレーネ・エデン夫人について調べてみたが、どういう人なのか分らなかった。読者の中でもしご存知の方がいたらご教示願いたい。では読んでみよう。



DR. WILHELM FURTWÄNGLER

Den 16. Dezember 46

Hiermit bitte ich, Frau Irene E d e n , Berlin-Schöneberg, Hewaldstr. 5, Eintritt zu meiner am 17. Dez., 10 Uhr, stattfindenden Verhandlung zu geben.

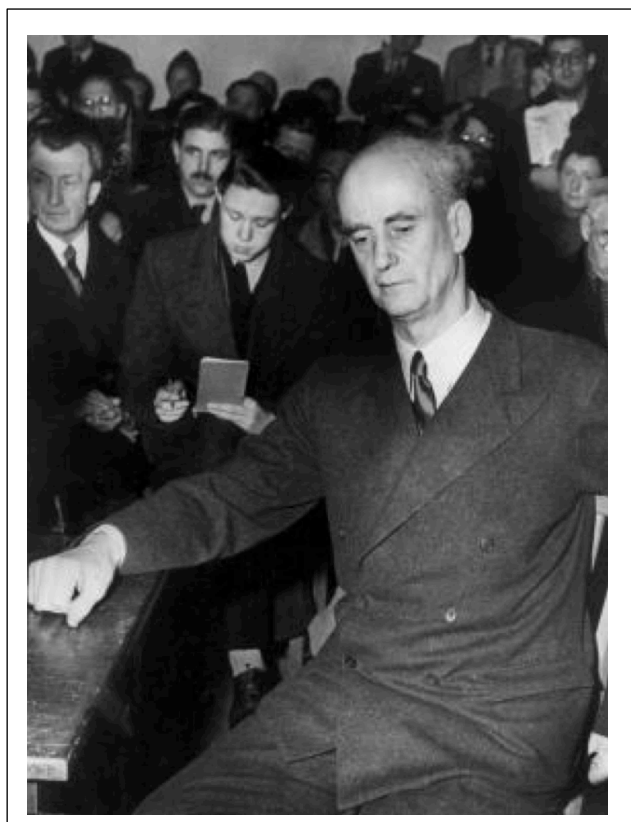
Dr Furtwängler (自署)

46年12月16日（注・2）

この文書によって、私はベルリン市シェーネベルク地区ヘーヴァルト通り5番地在住
イレーネ・エデン夫人が12月17日10時から開かれる私の審理に入廷出来るように、
要請いたします。

Dr フルトヴェングラー（自署）

（注・1）この文書が誰に宛てて書かれたものか、明らかではない。推測だが裁判所々
長、裁判長或いは廷吏に出されたものかも知れない。何れにしてもよく今日まで残って
いたものだと思う。



（注・2）「非ナチ化裁判」の審理は1946年12月11日および17日の2回に亘って行われた。何らかの理由で2回目の審理にエデン夫人に入廷（傍聴）して貰いたい事情が生じたのであろう。この短い文面ではどちら側（フルトヴェン

グラー 又は エデン夫人）の希望で入廷要請が行われたのかは、不明である。なお裁判の判決は1947年4月1日に下され、フルトヴェングラーは晴れて無罪となった。しかし68歳で亡くなるまでに残された戦後の活動期間は、この時から7年半しかなかった。

寄稿

フルトヴェングラーの銘盤 アナログ再生の魅力 <米国盤>

清水公典

アナログレコード市場の急成長が新聞や雑誌等で報道されるようになった。再生装置や調整など手間のかかる楽しみ方ではあるが“形”の残らない音楽配信に比べて、音盤（レーベル）、ジャケット、音質の違いを実感できるなどの“現実感”が復活の理由かも知れない。フルトヴェングラーの銘盤と言えばそのほとんどがイギリス、ドイツの老舗レコード会社によって録音、製作されている。市販されたSPやLPも英HMVや独グラモフォン社のオリジナルに人気があり、同一音源でも英独以外の各国盤は二番煎じ的な扱いを受ける傾向にあったように思われる。米国盤は一般的には人気のない傾向にあるが、実際に再生してみるとハッとするような瑞々しさ、しっとりとした質感の良さを体験できるものがある。そのいくつかを紹介してみたい。

☆ ヴェーバー 「魔弾の射手」序曲 1935年録音 SP ベルリン・フィルハーモニー
・米 Brunswick 95030/1 オリジナルは独 DGG の 67108/9

これらのSPはともに独DGGの金属原盤(マトリックスは542 1/2GS、543 1/2GS、544 GS)で製造されているが盤の重さはDGG盤の300gに対してBrunswick盤は350gもある重量盤。この米盤の特色は優美な柔らかさに示される。第一面序奏でのホルンと第二面主部で活躍するクラリネットの伸びやかさ、「狼谷」の旋律でも粗くならないオーケストラの強奏などDGG盤の厳しさの漂う音質とはだいぶ違いがある。再生はやはり米GE製のRPX046カートリッジを使い、高域はフラット、低域のターンオーバーは350Hz程度が好ましく感じられる。センターより先日頒布された桧山コレクションのWFFC1501-HYM「悲愴」のSP元盤も米RCA発売の戦前盤であった。



95030



67108B

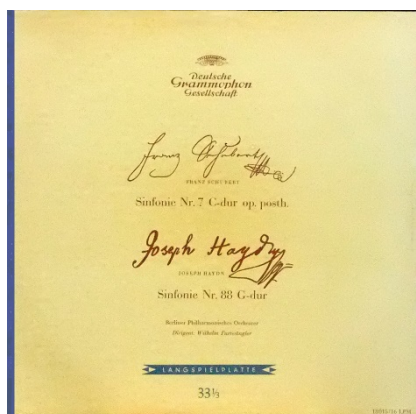
☆ シューベルト 交響曲第9番「グレート」1951年録音LP ベルリン・フィルハーモニー
 ・米 Decca DL9645/6 LPオリジナルは独 DGG の18015/6LPM

このLPは後発の1枚ものではなくハイドンの88番と組み合わせられた2枚のアルバム入りの豪華版。最初からテープに収録されておりLP原盤のカッティングは米 Decca 社によるもの。このLPはRIAAのカーブで再生しても奥に引っ込んだ冴えない音になり、AESのカーブでもエネルギー不足の鳴り方という少々厄介なところがある。ところがこちらでもGEのRPX053Aを使いRIAAで再生すると見違えるような鮮明な音質が得られる。第一楽章冒頭第17小節から始まる弦楽合奏のハーモニーは独盤LPよりも鮮明になり、第四楽章冒頭のスピード感はSPオリジナルのLVM72155(マトリックス番号03148)に勝るとも劣らないものである。



DX119 (DL9645/5)

DL9645



18015/6LPM



18015LPM

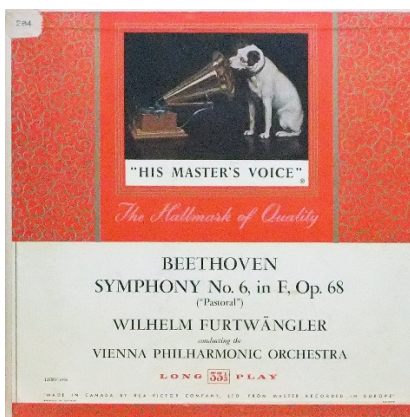


03148 (LVM72155 テスト盤)

☆ ベートーヴェン 交響曲第 6 番「田園」 1952 年録音 LP ウィーン・フィルハーモニー

・加 RCA LHMV1066(米RCAカッティング) オリジナルは英HMVのALP-1041
 英 HMV の 1952 年スタジオ録音の「田園」は同じレコード番号でもマスター盤のカッティング時期に

よる音質の変化が有名。また初版盤マトリックスの 2XVH33-1N、34-1N では分厚く響く低弦に対して高域を爽やかに再生するには工夫が必要。英盤に加えて独 Electrola 盤でも同様の傾向であるのに対して米（加）盤では低音は引き締まりウィーンの弦楽器、管楽器が繊細なタッチでニュアンス豊かに響く。この LP は米 RCA のカッティングで製作されており（マトリックス番号は E3RP-5342-5S、5343-3S）本家 RIAA の再生カーブできれいに鳴らすことができる。上記英 HMV の ALP-1041 を GE の RPX053A で再生するとこの RCA の再生音に似てくるのは興味深いところである。



LHMV1066 (Canada)



LHMV1066 (Canada)



ALP1041



会員継続手続きのご案内

～ 手続き期限 平成27年12月30日（水）迄です ～

12月31日を以てフルトヴェングラー・センターの会員期間が満了になります。次年度も引き続きセンターをご支援いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

またフランス・フルトヴェングラー協会の会員期間も1月から12月末です。引き続き同協会の活動のご支援もよろしくお願いいたします。フランス協会には入会金制度はなく年会費が4000円*です。未加入の方はこの機会にご加入ください。フランス協会の頒布資料の取次については、来年度に入りましたら再度実施いたします。

※フランス協会の会費は為替レートの状況により変更いたします。

下表を参照いただき、同封の郵便振込票にて12月30日（水）までにご送金いただきますようお願い申し上げます。CDなど頒布資料を購入いただく場合は、下表の「A～Bいずれかの年会費額」に「頒布資料の金額」を加えてください。

例：センター会費 3,000 円+ 仏会費 4,000 円+ SWF151-3 4,300 円
+WFFC1503-HYM 1,600 円 + WFER1504-BD 3,200 円= 合計 16,100 円

会 費	①フルトヴェングラー・センター年会費	3,000 円①
	②フルトヴェングラー・センター年会費+フランス協会年会費	7,000 円②
頒布資料	1951年ザルツブルクの『魔笛』	@4,300 円
	WFFC1503-HYM (1CD-R) モーツァルト作曲 交響曲第40番 「グラン・パルティータ」	@1,600 円
頒布資料	第67回レクチャー・コンサート DVD-R (2枚組)版 WFER-1504-A/B	@3,400 円
	ブルーレイ版 WFER-1504-BD	@3,200 円

《 お 願 い ・ お 断 り 》

◎頒布資料の転売・譲渡等は禁止です！ 名義貸し・転売・譲渡・オークション出品は厳にお断りいたします。

◎郵便振込の控は、お支払いの証拠資料です。紛失せぬよう大切に保管下さい！

センターにお問い合わせをいただく時は、振込控に記載の「郵便局受付日付」と「金額」をお知らせ下さい。

◎海外協会のものにつきましては、あくまで取り次ぎサービスのみをさせていただいております。フルトヴェングラー・センターとしては製品のソースそのもの、および妥当な外見性までの保証責任はもっていないことをあらかじめご了解いただきますようお願いいたします。また、視聴に支障がないような損傷、汚れなどによるお取替え、返品はご容赦ください。

◎寄稿の内容はフルトヴェングラー・センターの主張・見解を代表するものではありません。

◎発行人の許可なく記事・写真等を無断転載・転用することは厳にお断りいたします。

ホームページに掲載した会報では、原稿がカラー写真の場合はモノクロではなくカラーでご覧いただけます。



(1947年5月26日 戦後ベルリン・フィル復帰コンサートのためのリハーサル風景)

フルトヴェングラー・センター会報第43号 発行日 2015年11月

発行人 フルトヴェングラー・センター®

〒223-0052 横浜市港北区綱島東2-14-16

名誉会長：アンドレアス・フルトヴェングラー博士 名誉顧問：ヴァルター・バリリ

名誉会員：ズービン・メータ、クリスティアン・ティーレマン アドヴァイザー：ヘニング・スミット（オルセン）

顧問：松山浩介

会長：理事 中村政行 理事：鈴木芳雄、呼川秀邦、市川悠一、大橋陽一郎、中村匠一（音響担当） 監事：鹿内浩胤

チーフ・リサーチャー：清水宏

電話（お問い合わせなどは夜8時～10時の間にお願いします）080-660-33444

郵便振込口座 00240-9-111630 E-mail: info@furt-centre.com URL: furt-centre.com